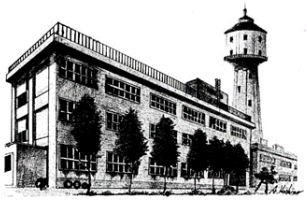
令和４年１２月２２日発行

新潟県立長岡聾学校　学校だより

はくちょう



〒940-0093　長岡市水道町 2-1-13　TEL　0258-32-1007

変化の機会を大切に

高田分校教頭　山田　聡

もうすぐ 2022 年が終わろうとしています。皆さんにとって、今年はどんな年でしたでしょうか？新型コロナ感染者はいったん減少し、行える活動も増えてきましたが、現在ではまた感染者が増加し、報道では第８波がやってきたと言われています。不安を抱いている保護者の皆様も多いかと思います。皆様からは、日々変化する校内の状況とその対応について、ご理解とご協力をいただいておりますことに、改めて感謝申し上げます。学校では、幼児児童生徒の安全を確保するため、引き続き必要な感染予防対策を徹底します。コロナ禍はまだ終息しませんが、学びのスタイルが変化していく中にあっても、子どもたちが安全で充実した学校生活を送れるよう、全職員で力を合わせて指導してまいります。

深刻な話題でしたので、少し話題を変えます。以前私は先輩の先生から、以下のような話を聞いたことがあります。それは、「子どもが成長するチャンスは、１年の中で誰にでも平等に５回あります。新学期のスタート（３回）と新年、誕生日です。この機会を大切にして、新たな目標を立て、よりよい自分に変わるチャンスにつなげてください。」と言うことです。実際、「２学期からは苦手な算数を頑張ろう」と言っていた子どもが、翌年にはクラスで１番の成績になったこともありました。子どもは、ほんのちょっとしたきっかけで変わることがあります。まだ未開発で未知なる力を秘めているので、大人がびっくりするような変化を遂げることもあります。１月は、ちょうど新年と３学期のスタートが重なっており、自分を変える２倍のチャンスです。しかし、その前にしっかりと「振り返り」を行うことが大切です。なぜ成功したのか、なぜうまくいかないのか、とその原因を考えることで、成功する確率を高めたり、同じ失敗を繰り返したりしなくなります。がむしゃらに前に突き進んでいくことが大事な時もありますが、一度立ち止まり「振り返り」を行うことで、自分とって本当に必要な目標が見えてくることもあるのではないでしょうか。１年が終わるこの時期に、是非、ご家庭で子どもと一緒に今年１年間を振り返る機会を設けていただければと思います。

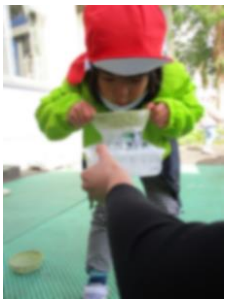
冬休みならではの計画を立てているご家庭もあるかと思います。子どもたちが、安全で充実した生活を送れるよう、ご家庭での支援をお願いいたします。寒くなりましたので、登校や送迎の際、積雪や路面の凍結には十分にご注意ください。令和５年もどうぞよろしくお願いいたします。

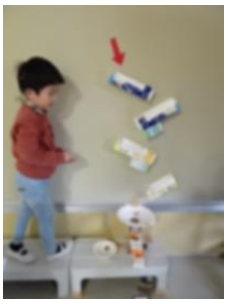
各学部の２学期の様子

幼稚部

幼稚部では、朝や昼の遊び、また登下校のときにも興味をもって遊びに参加できるよう２学期の遊びの内容を工夫しました。子どもたちは、朝遊びで楽しい遊びをすると「給食を早く食べてまた〇〇して遊ぼう」と笑顔で話していました。「ピタゴラスイッチ」は子どもたちに人気で「あと１回やらせて」と何度もビー玉を転がして遊んでいました。また、天候の良い日は、中庭で体を動かして外遊びをしました。虫に触れるようになった子どもが増え、「みてみて、こおろぎを捕まえたよ」「トンボを指ではさめたよ」とうれしそうでした。

２学期は「遠足」「文化祭」「発表会」と大きな行事が続く時期です。子どもたちは、文化祭の作品づくりや発表会の練習も一生懸命がんばっていました。大きな行事が続くとどうしても遊びの時間が短くなったり、内容が単調になったりしがちです。しかし、幼児にとって遊びはとても大切な時間です。遊びの経験をとおして体の動かし方や物の見方や考え方、人とのかかわり方など様々なことを学んでいます。キラキラ目を輝かしながら遊んでいる子どもの心の動きをキャッチし、発信を丁寧に受け止め、言語化したり、口声模倣したりしながら、言語指導も行ってきました。子どもたち同士のかかわりが、遊びの中でも増えてきてみんなで楽しく過ごした２学期でした。





小学部

各学部のステージ発表、作品展、そしてPTAのバザーというのが、かつて聾学校の文化祭でした。さらに、多くの卒業生が集い、手話でのおしゃべりに花が咲くというのも聾学校ならではの風景でした。しかし、現在の学校は教える内容も増え、学校行事を縮小する方向があり、加えてコロナ禍です。それでも、何とか今年度は、無理のない範囲で子どもたちの活躍する姿を見ていただきたいと考え、合奏とダンスの発表をしました。いかがだったでしょうか？

上学年の合奏は、一学期に学習した「オー・ラリー」を文化祭用にアレンジして披露しました。しっとりした落ち着いた演奏は、さすが上学年です。下学年の合奏「よろこびの歌」は、夏休み明けから一生懸命練習したものです。音を合わせるというのはとても難しいことですが、指揮の先生を真剣に見つめながら、一生懸命合わせようとする姿に大きな成長を感じました。

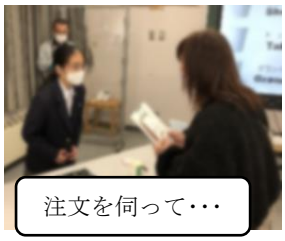
また、ダンスは、大好きな手話ソング「みんながみんな英雄」をもとにオリジナルダンスを考えました。そして、職員がヒーローに扮する練習用の動画を見ながら、走ったり、寝そべったり、かっこよくポーズを決めたりと、とにかく楽しみながら練習を重ねました。自由に踊る「ララララッ～」のところは、その子らしさがよく表れていて、大いに盛り上がり、見応えもありました。

最後に忘れてはいけないのが、前座と中座で１年生が発表してくれた、ひげダンスです。最高に可愛く、場を和ませてくれました。

中学部

２学期は、東中学校との交流会や職場見学・体験など、手話をほとんど知らない方と関わる行事を行いました。また、聴能週間では、某有名コーヒー店の店員という設定で、『お客様の注文を聞く』そして『聞いた注文を同僚役の店員に伝える』ことに挑戦しました。

東中との交流会


注文を伺って･･･

指さしで確認して･･･

同僚役にメモで報告

先輩に教わりながら、職場体験

感染拡大予防のため、マスクをした状態での会話になり、聞こえにくさを実感しました。身振り、筆談、聞き返しなど、自分で正しく聞き取る方法や相手に伝える方法を考えたり、仲間のやりとりを見てまねたりしながら、コミュニケーションをとりました。

弁論大会

また、弁論大会では、自分の考えをまとめ、みんなに伝わるように発表することに取り組みました。話すときの視線、話す声の大きさや速さ、手話の大きさや表情など、当日に向けて練習を重ね、当日は、しっかりと自分の考えを伝えていました。

高等部　産業技術科

感染症対策を十分に取りながら、２学期もたくさんの学びや行事を実施することができました。今年は文化祭と全国障害者スポーツ大会の日程が重なっていたため、早くから計画的に準備を進め、当日は少ない人数でも文化祭を盛り上げることができました。

文化祭

栃尾高校交流会

動画制作授業

いろいろな行事や活動を行いながら２回の定期テストを迎える生徒の姿を見ていると、日常の授業に取り組む姿勢が結果につながると感じます。「テスト前だから」ではなく、日頃から集中して学習する習慣を身に付けてほしいと思います。

１２月には筑波大学社会貢献プロジェクトとして、筑波大学附属聴覚特別支援学校専攻科の先生方３名と、当校を卒業し現在専攻科２年生に在籍している生徒１名が来校し、動画制作やドローン操作を指導していただきました。上級学校の先生方や生徒との関わりのなかで、高校卒業後の進路について考える機会にもなったと思います。

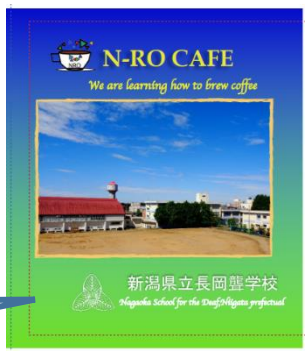
ドローン操作体験

高等部　普通科

文化祭に向けての活動を紹介します。文化祭では毎年オリジナルドリップバックを販売していますが、今年はそのデザインを生徒たちが考えるという新しい試みを取り入れました。まずは生徒一人一人がiPad を使って、文字・写真の配置や背景の色を考えました。その後意見を持ち寄り、グループで１つのデザインにまとめました。「この色だと明るい感じがするね」「〇〇さんの色素敵」「私の背景に〇〇さんの文字を入れるといいね」など、今までにない、より良いものを作りたいという気持ちが伝わってきました。

今回の活動は、自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見を聞いたりすることで、社会人として必要な力であるコミュニケーションの学習にもなったと感じています。また、自分たちで考えたドリップバックということで、販売活動にも自信をもって取り組めたように感じます。

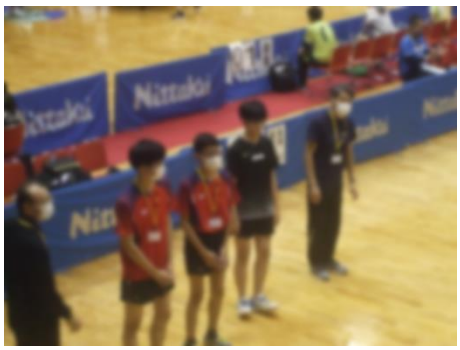
来年も新しいデザインのドリップバックを販売する予定です。ご期待ください。



生徒たちが考えたデザインです

全国聾学校卓球大会 香川大会

１１月４日～６日の３日間、香川県高松市にて開催された第５９回全国聾学校卓球大会に高等部の４名が参加しました。今大会に向け、夏休みに基本練習をやり直し、自分の課題に向き合いました。一部男子団体には福井校との連合チームとして出場しました。残念ながら合同練習をすることはできませんでしたが、大会前に福井校とリモートで決起集会を行い、積極的にコミュニケーションを図りました。結果は一部女子団体で３位入賞、一部男子個人でベスト８と、日頃の練習の成果を発揮することできました。全国から集結した大会の雰囲気を体験し、選手たちの技術の高さに触れ、非常に収穫の多い大会だったのではないかと思います。香川県は温暖な気候で競技に集中することができ、名物のうどんを堪能することもできました。来年の全国大会は愛知県で行われます。今後も多くのご声援をよろしくお願いいたします。



学校の話題は Facebook にも掲載されています。
こちらもぜひご覧ください。